

ちょっと気になるデータ

母の就業状況

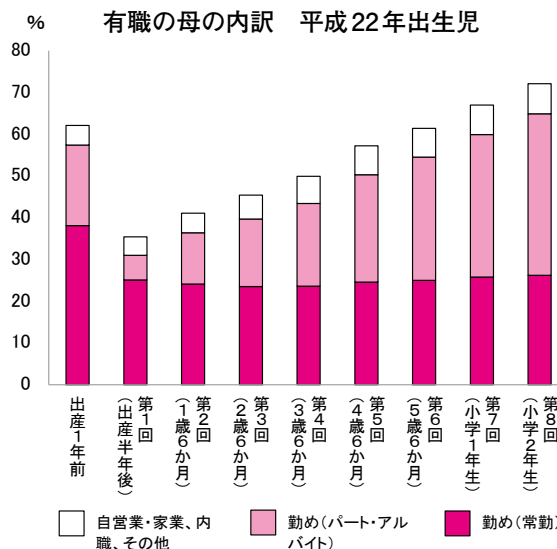
—第8回「21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」結果から—

2019年5月に厚生労働省から「21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」の第8回（平成30年）調査の結果が公表された。21世紀出生児縦断調査は、21世紀の初年である平成13年に出生した子どもとその比較のために平成22年に出生した子どもを継続的に観察している縦断調査である。なお、今回公表された第8回調査では、対象となっている子どもは8歳（小学2年生）である。

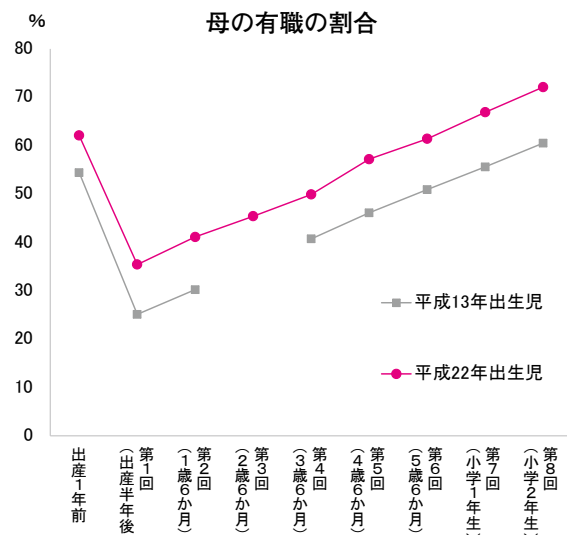
調査では子どもの母の就業状況が調べられている。

今回第8回調査では、母が有職^{注1}である割合は72.1%^{注2}となっており、平成13年出生児の第8回調査（60.5%）と比べて11.6ポイント高くなっている。母の有職の割合の推移をみると、出産1年前で62.1%であったが、第1回調査（出産半年後）では35.4%に低下し、その後は上昇している。平成13年出生児と比較すると、平成13年出生児でも同様の推移であるものの^{注3}、平成22年出生児の方がいずれの回の調査でも有職の割合が高くなっている。

次に、平成22年出生児について、第8回調査で有職である母（72.1%）の内訳をみると、「勤め（パート・アルバイト）」が38.7%と半数以上を占めて最も高く、次いで「勤め（常勤）」が26.2%、「自営業・家業、内職、その他」が7.2%となっている。第1回調査から第8回調査までの推移をみると、「勤め（パート・アルバイト）」がもっぱら増加している。



注1 第1回調査から第8回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数20,495）の集計。



注1 平成22年出生児の第1回調査から第8回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数20,495）の集計。

注2 平成13年出生児の第1回調査から第8回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数31,920）の集計。第3回調査では母の就業状況が調査されていない。

ト・アルバイト）」が38.7%と半数以上を占めて最も高く、次いで「勤め（常勤）」が26.2%、「自営業・家業、内職、その他」が7.2%となっている。第1回調査から第8回調査までの推移をみると、「勤め（パート・アルバイト）」がもっぱら増加している。

また、出産1年前に「勤め（常勤）」であった母について、第1回調査から第8回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は、平成22年出生児で38.7%、平成13年出生児で27.5%となっており、平成22年出生児の方が11.2ポイント高くなっている^{注4}。

注1 勤め（常勤）、勤め（パート・アルバイト）、自営業・家業、内職、その他をあわせたもの。育児休業中等の休業を含む。

注2 第1回調査から第8回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数20,495）の集計。以下同じ。

注3 第1回調査から第8回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数31,920）の集計。第3回調査では母の就業状況が調査されていない。

注4 第1回調査から第8回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（平成13年出生児総数31,920、出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」10,358、平成22年出生児総数20,495、出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」7,802）の集計。

（調査部 統計解析担当）